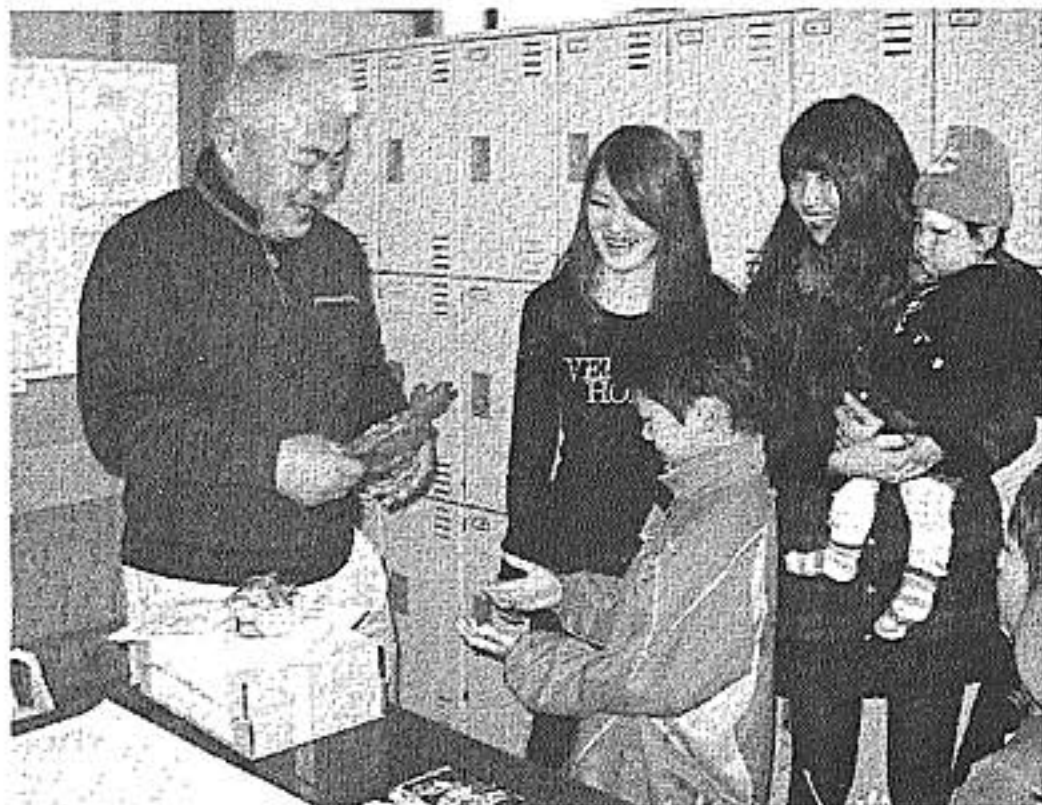


2年ぶり社内文化祭

近隣住民も参加し交流



【三重】中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）は17日、2年ぶりに社内文化祭を開催。従業員と家族に加え近隣住民も参加し交流を深めた。女子社員らを中心に企画・運営しているもので、2010年に第1回を行ったが、昨年は担当者の産休などにより見送られていた。今回は「つながろう！みんな」をテーマに掲げて実施した。（星野 誠）

本社会議室には、従業員が日頃の趣味や特技を生かした、絵画、陶芸、模型などの力作が多数並んだ。各部署と社外から集めた写真コンテストの応募作品も展示。会社の歴史が写真入り

「今は全てパソコン（PC）のエクセルで処理しているため、ほとんどの社員は手書きの配車表を知らない。原点を思い起すため、今回初めて展示した」と中田氏。

中田氏が理事長を務めるNPO法人が運営する少年サッカーチーム「FCアヴェニータソル」の選手も参

加。選手たちが田植えした伊賀産コシヒカリを使ったカレーライス、焼きそば、中田氏による焼き鳥などが来場者に振るまわれた。

写真コンテストでは情報管理室が最優秀賞に輝き、

5万円相当の旅行券を獲得。また、サッカーチームの子供たちが「家族の笑顔」をテーマに描いた絵画コンテストの表彰式も行われ、賞状と参加賞を手渡された。中田氏は「同僚の意外な

特技に気付くことは、社内コミュニケーションと相互理解につながる。文化祭は来場者を喜ばせる工夫も必要のため、顧客サービス向上にも直結する」と話している。